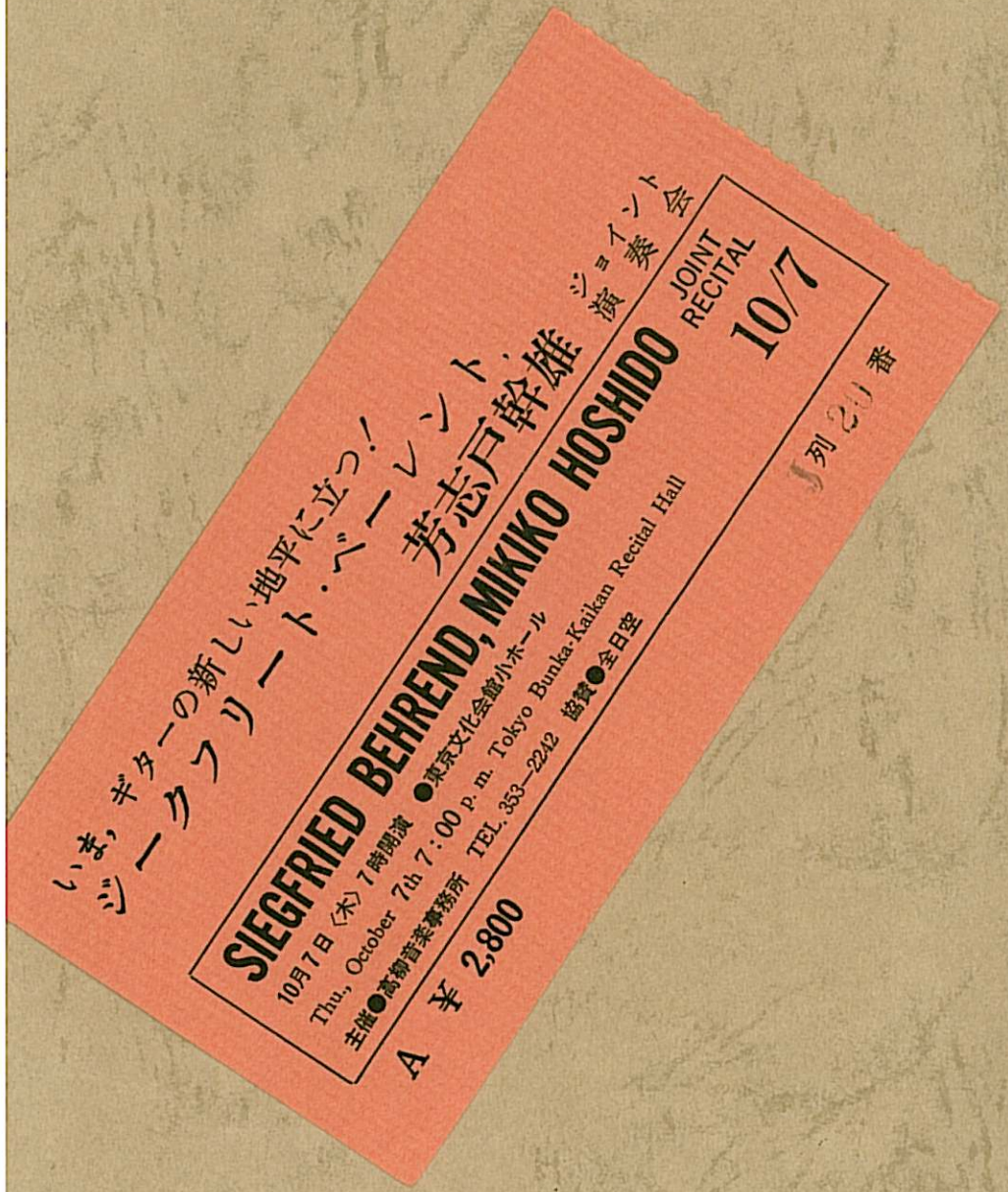


街には〈音〉があふれています。

けれど，あなたの心には，

〈音楽〉をあふれさせたいのです。

使用楽器／ワイスガーバー，ヤマハカスタム（江崎秀行 作）

PROGRAMME A

第１部　独奏＝芳志戸幹雄

黄金のポリフェーモ …… ブリンドル
ティエント …… オアーナ
フォリオス …… 武満 徹
エピターズ …… 三善 晃

第２部　二重奏＝ベーレント & 芳志戸

Meet …… 野呂武夫
三つの二重奏曲 …… ベーレント
プロターズ …… 三善 晃

第３部　独奏＝ジークフリート・ベーレント

ギターのためのカント …… マッカベ
アルバヤルデ …… マルコ
ギターのためのバーサス …… ベンゲレル
ウルティマ・ララ …… ブゾッティ
メタシーシス …… ベッカー

PART. I Mikio Hoshido Solo

El Polifemo de Oro …… **Brindle**
Ben Adagio, Allegretto, Largo, Ritmico e vivo.
Tiento …… **Ohana**
Folios …… **Takemitsu**
Epitase …… **Miyoshi**

PART. II Behrend and Hoshido Duo

Meet …… **Noro**
Drei Duos for two guitars …… **Behrend**
Sehr ruhig, ruhig, ruhig
Protase …… **Miyoshi**

PART. III Siegfried Behrend Solo

Canto for guitar …… **MaCabe**
"albayalde" …… **Marco**
dedicated to Siegfried Behrend
Versus for guitar …… **Benguerel**
dedicated to Siegfried Behrend
"ultima rara" pop song …… **Bussoti**
dedicated to Siegfried Behrend
Metathesis …… **Becker**
dedicated to Siegfried Behrend

PROGRAMME B (b)

第１部　独奏＝荘村清志

リュート組曲第３番 …… バッハ
グラナダ（Bプロのみ）…… アルベニス
アルハンブラの想い出（bプロのみ）…… タルレガ
アストゥリアス …… アルベニス
エチュード第７番，第８番，第12番 …… ビラ=ロボス

第２部　二重奏＝ベーレント & 荘村

ノットゥルノ作品128-1，セレナーデ作品96-3 …… カルリ

第３部　独奏＝ベーレント

パバーヌとファンタジア …… ミラン
六つの小品 …… ロジー
組曲 イ短調 …… シェンク
アルマンド，クーラント，サラバンド，ジーグ，ガボット
組曲 …… ビゼー
三つの舞曲 …… ノイジトラー

PART, I Kiyoshi Shyomura Solo

Suite No. 3 BWV 995 …… **Bach**
Granada (only for B programme) …… **Albeniz**
Recuerdos de la Alhambra (only for b programme) …… **Tarrega**
Asturias …… **Albeniz**
Etude No. 7, 8, 12 …… **Villa Lobos**

PART. II Behrend and Shyomura Duet

Notturno Op. 128 No. 1 in A Major …… **Carulli**
Andante, ma non troppo, Allegretto
Serenade Op. 96 No. 2 in D Major …… **Carulli**
Largo, Larghetto,
Menuett (Presto assai), Rondo.

PART. III Siegfried Behrend Solo

Pavanas and Fantasias …… **Milan**
Six pieces for guitar …… **Losy**
Suite in a minor …… **Schenk**
Allemande, Courante, Sarabande,
Gigue, Gavotte,
Suite in d-minor …… **Visee**
Prelude, Allemande, Courante,
Three oldgerman dances …… **Newsidler**
Wascha mesa, Huppff auff, Gassenhawer.

PROGRAMME C

第1部　独奏＝荘村清志
リュート組曲 No. 1 …… バッハ
アルハンブラの想い出 …… タルレガ
フォリオ No. 1 …… 武満 徹
セビリア …… アルベニス
第2部　二重奏＝ベーレント & 荘村
ファンタジア …… ガリレイ
二重奏曲 "ドンナ・ディアナ" …… ウェーバー
セレナーデ Op. 96, No. 1 …… カルリ
ラルゴ・マエストーソ，アレグロ・モデラート，ラルゲット，
フィナーレ（アレグロ）
マラゲーニヤとスティアカンプフムジーク …… ベーレント
第3部　独奏＝ジークフリート・ベーレント
組曲〈オールド・イタリアン・リュート・ブックより〉…… ベーレント
マドリガル，マスケラータ，バレー，ガヤルド，バレー，
イタリアーナ，サルタレロ
組曲 ト長調 …… ロンカリ
プレリュード，アルマンド，ガボット，クーラント，ジーグ
大序曲 作品61 …… ジュリアーニ
世界の民謡と舞曲 …… ベーレント編
グリーンスリーブス，浜千鳥，トルコの民謡と舞曲，
ギリシヤの民謡と舞曲，タランテラ
ロマンスとスペイン舞曲 …… ベーレント編

PART. I Kiyoshi Shyomura Solo
Suite No. 1 e-minor BWV 996 …… **Bach**
Recuerdos de la Alhambra …… **Tarrega**
Folios No. 1 …… **Takemitsu**
Sevilla …… **Albeniz**
PART. II Behrend and Shyomura Duet
Fantasia for two guitars …… **Galilei**
Duo für zwei Gitarren aus "Donna Diana" …… **Weber**
Serenade Op. 96 No. 1 …… **Carulli**
Largo maestoso, Allegro moderato, Larghetto, Finale (Allegro).
Malaguena and Stierkampfmusik …… **Behrend**
PART. III Siegfried Behrend Solo
Suite for guitar …… collected and transcribed by **Behrend**
"from olditalian lutebooks"
Madrigal, Mascherade, Balletto, Gagliarda. Balletto, Italiana, Saltarello
Suite in G Major …… **Roncalli**
Prelude, Allemande, Gavotte, Courante, Gigue.
Grande Ouverture Op. 61 …… **Giuliani**
Songs and dances of the world …… collected and transcribed by **Behrend**
Greensleeves (England), Hamachidori (Japan)
Songs and dances from Turkey, Songs and dances from Greece
Tarantella (Italy)
Romance and spanish Dance …… **Behrend**

ジークフリート・ベーレント日本楽旅日程

〈1976年〉

9月21日（火）7時	東京・中央会館〈Bプロ〉	高柳音楽事務所
9月22日（水）7時	東京・虎ノ門ホール〈Dプロ〉	東京音協
9月28日（火）7時	大阪厚生年金会館 中ホール〈Cプロ〉	読売新聞社大阪本社 フォルテ音楽事務所
9月30日（木）7時	横浜教育文化ホール〈Cプロ〉	ヒロ・ミュージック
10月6日（水）6時半	仙台市民会館〈Bプロ〉	仙台音楽鑑賞協会
10月7日（木）7時	東京文化会館小ホール〈Aプロ〉	高柳音楽事務所

高柳音楽事務所
〒160 新宿区左門町1番地 愛好ビル203号
電話（03）353—2242

後援：ドイツ連邦共和国大使館

Aプロ曲目解説

ギタリスト　芳志戸 幹 雄

ブリンドル／黄金のポリフェーモ

ブリンドルは，1917年生れのイギリスの作曲家である。

この作品は1963年の作品で，今世紀スペインの代表的詩人の一人，フェデリーコ・ガルシア・ロルカの一篇の詩「ギターの不思議」に霊感を受け創られた。

円くなった輪の中で
六人の乙女達が踊る。
三人は紅色
三人は銀色
昨日の夢は彼女達を探す。
しかし
黄金のポリフェーモが
彼女達を抱いてしまった。
ああ　ギターラ！　　拙訳

という短かい詩である。黄金のポリフェーモとはギリシャ神話に出てくる一ツ目の巨人なのであるが，実はこの巨人は，セゴビアと並ぶギターの巨匠，サインス・デ・ラ・マーサを指す。デ・ラ・マーサと深い親交のあったガルシア・ロルカがデ・ラ・マーサのとある演奏会から受けた感銘により，この詩を書いたらしい。

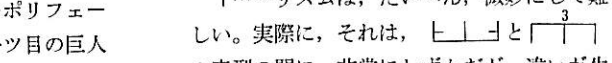
曲は4つの断章からなる。終章に第1章の一部が現われる如く，4章間に有機的な環があるといえよう。

オアーナ／ティエント

現在スペインの作曲家の中でも特異な光を放つマウリシオ・オアーナは，1914年カサブランカに生まれた。父は英国籍のスペイン人，母はアンダルシアの古いユダヤ系の家系である。彼は現在フランス放送局に在籍しパリに住むが，彼の注目は，スペインのルネサンス時代の音楽からフラメンコのみならず，広く地中海に接するあらゆる国の音楽に向けられている。

今日奏く“ティエント”という呼び名は16世紀スペインの厳格な模倣的対位法によるオルガン曲を意味する。このオアーナ1957年作のティエントは，それを素材に「スペインのフォリア」をテーマとする極めて自由な変奏曲といえよう。

この原稿を書いた数日後，光栄にも，オアーナ氏よりパリから，私のもとへ一通の手紙が届いた。この春発売された私のレコードの中に“ティエント”を収めてあるので，先日，オアーナ氏にそのレコードを送った。それへの謝辞と多少の演奏評，そして“ティエント”の解釈に対するいくつかのアドバイスが，オアーナ氏の手紙の内容であった。それらはすべて，私にとって勉強になることであるが，彼自身“ティエント”について

「……リズムは，たいへん，微妙にして難しい。実際に，それは，  の音型の間に，非常にわずかだが，違いが生ずる。そしてまた，このリズムは，非常に古く，また，伝統的な，通俗的なリズムなのである。……」

とその手紙の中で語っている。

フォリオス／武満 徹

この作品は1974年5月，荘村清志の為に書かれた。初演は同年7月荘村によってである。この作品は，武満氏のギター・ソロとしては初めての作品である。

初演の際，プログラムに載せられた武満氏の作者としての言葉は次の様である。

「タイトルのフォリオの意味は，英語で，二つ折の紙を指し，それぞれ2頁に書かれた独立した小品という程度の意味あいで使われている。そして3曲のフォリオはどの様な順序で奏されてもよく，組み合わせは演奏者にゆだねられている。

フォリオⅠは旋律の透明な遠近法
　　Ⅱは3＋4を基本においた雨の音楽
　　Ⅲは悼歌，マタイ受難曲よりの引用が聴かれる。

三善晃／エピターズ

この曲に関して，作曲者の三善さんご自身が下記のような一文を寄せてくださった。

『1975年芳志戸さんのリサイタル（12月25日）で初演された。

2台のギターのための“Protase”（前景：遠景より無景へ）を，荘村清志さんと芳志戸さんのために書き，初演していただいた時，ギターがこの二人それぞれの内象の形質を，どれほど切実に，宿命的に担っているかを識って，心打たれた。彼等の音楽があって初めて，私に，ギターという楽器が実在した。

“Epitase”はギリシャ劇のエピタシスのことで，フィクションの「転」に相当すると言えよう。ヴァレリー流に言えば，Protase が永続性に観相の尺度を当てるのに対して，Epitase は変動にそれを当て，その根源に危機の認識を持つ。作曲中，私の発想は，芳志戸さんの限りなく深い陰翳の中に，私の書くギターの一音一音が危機の情況を維起しながら散り，沈んでゆく風景に向けられていた。

（原文のまま）

野呂武夫／Meet

『この曲は1964年9月ギタリストの三木理雄氏（1959年ウィーン・コンクール第2位）の委嘱により作曲し，11月末，完成した。

本年3月20日上野小ホールに於て初演され

ギター界の寵児・芳志戸幹雄がギター音楽に新風をふきかけた快演！
NHK・TV「ギターを弾こう」の講師として活躍

芳志戸／ギター・リサイタル
芳志戸幹雄：ギター・ソロ

● ダーラント：2つのガリャルダ　● ムダルラ：ファンタジア　● イタリア：ルネッサンスの2つの舞曲
● オアーナ：ティエント　● ファリア：ドビュッシーの墓に捧ぐ　● プロアー：4つのエチュード 他

30cm STEREO LP
●ALC-1044 ¥2,500

11月下旬発売予定
2TR38cm TAPE
●ALT-40 ¥15,000

AUDIO LAB.
株式会社 オーディオ・ラボ
東京都渋谷区千駄ヶ谷2の34ル ソレイユ201
☎(03)408-1650・4748 〒151

る予定である。

曲は全体が5楽章からなり演奏時間約7分位のものである。音響的には鐘，鼓，琴，等日本的な材料が取り入れられているが，表現する語法としては，音楽史的立場から見た現代20世紀後半の芸術として，広く国際性のもった，いわゆる現代語法によっている。

もし人々が耳を持っているならば
あらゆるものに音楽があるはずだ。
彼らの地球は天体のこだまに過ぎない。
バイロン』

上記の文は，1965年 Meet が印刷された際，作者の言葉として載せられたものである。

初演した三木理雄，人見徹両氏は10年前の羽田沖全日空の事故で急逝され，そして野呂武夫氏はその翌年他界された。この3人の方々の音楽家としての人生は決して長いものではなかったが，当時，こういった作品の創作と発表を続けられていた功績と，私達ギタリストへの影響は誠に大きい。

三善晃／プロターズ

『1974年，荘村清志さんと芳志戸幹雄さん，2人のジョイント・リサイタルのために事いた。

伴奏楽器としてでないギターのためには，これが初めての曲で，2人からその奏法の色々を教えてもらうこととなった。

2人それぞれの実音に接することで，同時にこの曲の「遠くから無へ」という楽想も与えられた，といってよい。2人の音楽は互いにかなり異質な世界を抱懐していると思われたが，しかし，その欲求がいつも思索的な指で確かめられ，確かめられた音が欲求を深化させてゆく，という営みに耐える音は，おそらく，限りない無音を内包しているのであろう。そうして，遠い前景（プロターズ）の中に，私はこの曲のクロッキを定置させることにした。』

上記の文は1976年6月「今日の音楽」のプログラムに作者の言葉として載せられたものである。

これより以下の解説は，ベーレント自身による。

ベーレント／3つの二重奏曲

この作品は，1960年に，自由な音調により書かれた。そしてまた，この作品は2人のギター奏者の間の対話であり，奏者は生き生きとした絵のような作品を演奏していることを確認できるであろう。

この奏者による対話では，“音”が形式よりも重要である。

マッカベ／ギターのためのカント（1968）

定評ある全音のギターピース

⊙ベーレント編曲	ZG-174	リュートのためのプレリュード（バッハ）	100円
	ZG-175	リュート組曲第1番（バッハ）	150円
	ZG-176	リュート組曲第3番（バッハ）	200円
	ZG-185	粉屋の踊り「三角帽子」から（ファリア）	150円
	ZG-186	代官の踊り「三角帽子」から（ファリア）	100円
⊙三善晃作曲		2台のギターのための「プロターズ」	近刊
		ギターのための「エピターズ」	近刊

全音楽譜出版社／東京都新宿区東五軒町25 〒162　支店／札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡・那覇

ジョン・マッカベ（1939—）は，オペラ，オーケストラの為の作品，室内楽等で受賞している，イギリスの第一線の作曲家である。

この作品は“20世紀音楽カーディフ・フェスティバル”の委嘱によるもので1968年4月22日に初演された。また，この作品は，“イギリス・ギター音楽”というドイツグラモフォンのレコードにベーレントの演奏で収められている。

マルコ／アルバヤルデ（おしろい）

トーマス・マルコ（1941—）は，現在スペインでの，アバンギャルドの巨匠といえよう。彼は評論家，数多くの本の著者，そしてまた新しい音楽的試みをしているいくつかのグループの設立者として活躍し，現在，マドリードのスペイン・ラジオ放送局のディレクターの要職にある。

この“アルバヤルデ（おしろい）”は彼の最初のギター曲であるが，ギターとパーカッションの為の“ミリャルダ（限り無い数）”やギターと2つの弦楽オーケストラの為のコンチェルト“グゥアディアーナ（川の名）”も書いている。

“ミリャルダ”はベーレントと，ジークフリード・フィンクによってバルセローナのＥＤＩＧＳＡでレコーディングされており，“グゥアディアーナ・コンチェルト”は1974年にマドリードで初演され，大成功を収めた。

ベンゲレル／ギターのためのバーサス

ハビエル・ベンゲレル(1931—)はバルセローナ在住の第一線の作曲家であり，マルコと同様，彼のギター作品はすべてベーレントに捧げられている。

彼はギターとオーケストラの為の素晴しいコンチェルトを一曲書いており，この作品はアバンギャルドなギター・コンチェルトとしては，まさに，初めてできた優れた作品といえよう。そのコンチェルトは1972年にバルセローナ・フェスティバルで，ポーランドの著名な指揮者，アンドレイ・マルコフスキーの指揮でベーレントにより初演された。また，ベーレントはワルシャワ・フィルハーモニー・ホールでこのコンチェルトを演奏したが，それは，この素晴しいホールで聴かれた初めてのギター・コンチェルトであった。

“バーサス（対）”はクロスター・モンセラーの本からのメロディーを基にして書かれているが，斬新な手法による古いスペインの要素と通俗的なスペイン音楽が併合している作品である。

ブゾッティ／ウルティマ・ララ

サルバーノ・ブゾッティ（1931—）は，イタリアで最も人気のある，フローレンス生まれの前衛作曲家である。彼はすべての作品の基礎に伝統的な要素を置いている。

彼のオペラ“ロレンツァッキオ”と，そしてまた“パッシオ”は，現代音楽のすべての場所で演奏されている。

“ウルティマ・ララ”はローマのゲーテ・インスティテュートの委嘱でベーレントの為に書かれ，ローマで初演されている。

ベッカー／メタシーシス（転換）

ギュンター・ベッカー（1924—）は，はじめ，ダルムシュタット新音楽休暇講習会で仕事をしていた。

その後，彼はアテネへ行き前ギリシャ王子の音楽教師となり，同時に，アテネのゲーテ・インスティテュートで現代音楽部門を創立した。ベッカーの作品は現在，世界で演奏されており，また，彼自身電子音楽のアンサンブルの指揮をした期間もあり，現在はデュッセルドルフで作曲の教授をしている。

芳志戸幹雄ギター・リサイタル
〈スペイン近代の夕〉
11月27日（土）6時半　石橋メモリアルホール　入場料＝1,800円（全自由席）
曲目：アルベニス，デ・ラ・マーサ 他

Bプロ／Cプロ曲目解説

ギタリスト　荘村清志

〈Bプロ〉

バッハ／リュート組曲第3番

バッハ（1685—1750）の作品の中には，リュートの為のものが数曲ある。

リュートという楽器は，洋梨を半分に割ったような形で素朴な味わいのある楽器で，バッハがリュートの為に作品を書いたのは当時の第1級のリューティストであったレオポルド・バイスとの親交があったからである。

この組曲第3番は無伴奏チェロ組曲第5番をリュート用に少し手を加えたもので，プレリュードから始まり，プレスト，アルマンド，クーラント，サラバンド，カボットⅠ，Ⅱ，ジーグから成っている。

アルベニス／グラナダ

イサーク・アルベニス（1860—1909）は，スペイン近代楽派の重要な作曲家，ピアニストで，各地の民謡やフラメンコを素材にして美しい作品を数多く残している。“グラナダ”は，スペイン組曲の第1番で，副題に“セレナーデ”とある。（東京公演のみで演奏）

タルレガ／アルハンブラの想い出

フランシスコ・タルレガ（1852—1909）は，スペインのビヤ・レアル生れ，現代ギター奏法の先駆者である。数多くのギター曲も残しており，特にアルハンブラの想い出は，タルレガの作品の中では優れた曲の1つである。

（仙台公演のみで演奏）

アルベニス／アストゥリアス

イサーク・アルベニス（1860—1909）は19世紀末から20世紀初めにかけて興ったスペイン国民音楽の担い手の1人である。“アストゥリアス”はスペイン北部の地名であるが，“レイエンダ”（伝説）の副題がついている。原曲は「スペイン組曲」のうちの1曲で，ピアノ用に書かれたものであるが，もともとギター演奏に霊感を得て書かれたものだから，むしろギター曲のほうが効果的である。

ビラ=ロボス／7番，8番，12番

エイトル・ビラ=ロボス（1887—1959）はリオ・デ・ジャネイロに生れ，同市に没したブラジルの作曲家で，ラテン・アメリカ最高の作曲家と言われている。彼は子どもの頃からギターを愛好したため，ギター曲には，その楽器の性能と特質が良くひき出されており，その作品には5つの前奏曲や12の練習曲等がある。

カルリ／ノットゥルノ　作品128-1
セレナーデ　作品96-2

フェルディナンド・カルリは1770年ナポリに生れ1841年61才でパリに没したイタリアのギタリスト兼作曲家である。学者の子として生れ，牧師からチェロを学び，その後ギターに興味を移して独学し，1808年パリに進出して活躍し，300曲以上の作品を書いた。

“ノットゥルノ”作品128-1　はカルリの二重奏曲の中では，もっとも有名なものである。

作品96の2つの“セレナーデ”は4つの楽章に分れており，古典的手法で書かれている。

ミラン／パバーヌとファンタジア

ルイス・ミラン（1500—1565）はスペインのバレンシアの貴族の家系に生れ，宮廷では詩人としても音楽家としても名が通っていた。ミランは“エル・マエストロ”と題したビウエラの教則本を書いている。ビウエラというのは，当時愛奏されていた楽器で，ギターの前身となったものである。“パバーヌ”はこの曲集の中に6曲含まれているが，そのいずれもが典雅にして，当時の宮廷音楽を忍ばせる曲である。“ファンタジア”は40曲もある。

ロジー／六つの小品

アントン・ロジー（1650 or 1643—1721）はリュートの達人であったが，“4コースのギターの為に”も作曲している。同時代のS. L. バイスとも親交があったらしい。ロジーの作品は，技巧的に難かしくなく，内容的に楽しめる曲が多いようである。

シェンク／組曲イ短調

ヨハン・シェンク（1753—1836）は，ハイドンのレッスンに不満をいだいたベートーベンに数カ月対位法を教えたことでも知られる作曲家で，ウィーンで活躍，当時人気を得ていたバイオリンの名手でもあった作曲家ディッタースドルフと並び称された。

この組曲は，バロック時代の重要な形式であった古典組曲の形式を持っている。古典組曲の基本型はアルマンド=ターラント=サラバンド=ジグで，ふつうはサラバンドの前後に種々な舞曲がつく。この組曲にはガボットがついている。そして，ときにはアルマンドの前にプレリュード，シンフォニア，トッカータなどがつくこともある。

ビゼー／組曲二短調

ロベール・ド・ビゼー（1650頃—1725頃）は，フランスのルイ14世に仕えた音楽家で，5コースのバロック・ギターと，バロック・リュートのために数多くの作品を残した。1680年代に3冊のギター曲集，1716年にリュートの曲集を出している，組曲は数曲あるが，そのいずれも，バロック時代のスタイルで書かれている。

ノイジトラー／三つの舞曲

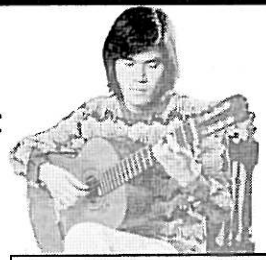
ハンス・ノイジトラー（1508—1563）は，

日本が誇る“ギター界のプリンス”
荘村清志がギターの楽しさを語りかける名曲集!!

●マイスタージンガー・シリーズ　各30cmステレオ　¥2,300　好評発売中

荘村清志／入江のざわめき

ソナタ（ギターのための）（アルベルト）
リュート組曲第2番（J.S.バッハ）
ショーロ（ヴィラ=ロボス）
プレリュード第2番ハ短調（ヴィラ=ロボス）
プレリュード第3番イ短調（ヴィラ=ロボス）
朱色の塔（アルベニス）
入江のざわめき（アルベニス）
アストゥーリアス（アルベニス）
グラナダ（アルベニス）
●TA-72026



アルハンブラの想い出
4つの小品（パーセル）／サラバンドと変奏曲（ヘンデル）／ソナタ ト長調、ホ短調（D.スカルラッティ）／バレエ（ヴァイス）／「魔笛」の主題による変奏曲（ソル）／他
●TA-72005

ギター・リサイタル
エリザベス女王のガリアード／マスターパイパー氏のガリアード／ハンスドン夫人の巻毛（以上ダウランド）／リュート組曲 第1番（J.S.バッハ）／プレリュード第1番、第4番、第5番（以上ヴィラ=ロボス）
●TA-72010

愛のロマンス
愛のロマンス（スペイン民謡）／商人の娘／アメリアの誓い／誠の唄（以上カタロニア民謡）／プレリュード第5番／夢（マズルカ）／涙／アデリータ／夢（トレモロ）（以上タルレガ）／他
●TA-72012

Toshiba RECORDS　東芝レコード　株式会社東芝EMI株式会社　EMI

ハンガリーのプラティスバに生まれ，その後ニュールンベルクで活躍したリュート奏者兼作曲家である。1536年から1549年にかけて4巻のリュート曲集が出版されているが，今晩は，その中から3つの舞曲が演奏される。

〈Cプロ〉

バッハ／リュート組曲第1番

この組曲第1番は，とても繊細な表情を持っていて，ホ短調というギター向きの調で書かれており，ギターで弾いた場合にとても効果のある曲である。

ガリレイ／ファンタジア

ビンチェンツォ・ガリレイ（1520—1591）は，有名な天文学者ガリレオ・ガリレイの父で，リュートの名手であった。1568年に“フロニモ”というタイトルで，リュートの曲集を出版していますが，その他にも曲集を出しており，全部で1000曲にも及びといわれている。

ウェーバー／二重奏曲“ドンナ・ディアナ”

カルル・マリア・フォン・ウェーバー（1786—1826）はオペラ“魔弾の射手”によって，もっともよく知られているが，ギターも良くできたらしく，オペラ“オベロン”にもギターが使われているほか，ギター伴奏による歌曲を何曲も残している。この曲は，ベーレントによって編曲されている。

ベーレント／マラゲーニャとスティアカンプフムジーク

ベーレントの作品“スペインの旅の印象”の中の曲で，スティアカンプフとは闘牛のことです。

ベーレント編／組曲——オールドイタリアン・リュートブックより——

ベーレントは，ギターの歴史にたいへん興味を寄せていて，そうした資料の蒐集や講座も盛んに行なっている。この組曲は，リュートのための曲集をベーレント自身が蒐集編曲したものである。

ロンカリ／組曲ト長調

ルドビーコ・コンテ・デル・ロンカリ（1652—1704）は，おそらくボローニャの宮廷と関係があったのだろうと思われる。バロック時代のイタリアの宮廷では，ギターがたいへん盛んだったのだ。このト長調の組曲では，ジーグがたいへん印象的である。

ジュリアーニ／大序曲　作品61

マウロ・ジュリアーニ（1780—1829）はイタリアのバレッタに生れている。作曲家としてはソロ・コンチェルト，室内楽など200曲くらいの作品を残しており，演奏家としてもバイオリン，ギターをこなしヨーロッパ全土で演奏旅行するほどで，かなりのビルトゥオーゾであったようだ。

ギター作品では作品30のギター協奏曲がもっとも優れていると思われるが，この“大序曲”も華麗なテクニックを展開するように作られている。

ベーレント編／世界の民謡と舞曲

イギリス民謡“グリーンスリーブス”，日本の歌“浜千鳥”，トルコの民謡と舞曲，ギリシャの民謡と舞曲，イタリアの“タランテラ”という構成になっている。

ベーレント／ロマンストスペイン舞曲

ベーレントは，若い頃スペインに留学しており，スペインの民謡の蒐集も行なっている。おそらく，スペインをたいへん気に入っているのではないかと思われるほど，スペインとは縁が深い。スペイン生れのオペラ歌手ピラール・ロレンガーと組んでのデュエットはドイツ楽壇の呼び物だったし，スペインの作曲家ロドリーゴは，ベーレントに曲を献呈しているほどである。この曲は，ベーレント自身が作曲したものである。

ギターを広い世界へ解き放つ。

ありふれたギターのイメージを排して——

《ベーレント/イタリアのギター音楽》

カローゾ：優しきラウラ、ロンカルリ：組曲ト長調、N・パガニーニ：ギターのためのソナタ、ジュリアーニ：大序曲、ムトゥラ：タランテルラ、カステルヌオーヴォ＝テデスコ：タランテルラ、恋におちた兵士、ブソッティ：ウルティマ・ララ
ジークフリート・ベーレント(ギター)
クラウディア・プロジンスカ・ベーレント(声)
●MG-1016 ¥2,600
〈録音：1974年10月、ベルリン〉

来日記念盤
好評発売中

予告　10月21日発売
《ベーレント/イギリスのギター音楽》
カッティング：グリーンスリーヴズ、ガリヤード、ダウランド：デンマーク王のガリヤード、エリザベス女王のガリヤード、他バチェラー、ロビンソン、キャミッジ、ダート、マックゲイブの各作品全15曲
ジークフリート・ベーレント(ギター)
越智　敬(第2ギター)
●MG-1028 ¥2,600
〈録音：1970年5月、ベルリン〉

好評発売中

○ヴィヴァルディ
ギター協奏曲ハ長調、ニ長調
○カルーリ
ギター協奏曲イ長調
○ジュリアーニ
ギター協奏曲イ長調
ジークフリート・ベーレント(ギター)／イ・ムジチ合奏団
●MG-2097 ¥2,400 〈録音：1968年10月〉

○ロドリーゴ
アランフエス協奏曲
○カステルヌオーヴォ＝テデスコ
ギター協奏曲ニ長調
ジークフリート・ベーレント(ギター)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
指揮：ラインハルト・ペータース
●M -5059 ¥1,300 〈録音：1966年5月、ベルリン〉

グラモフォンレコード　発売元/ポリドール株式会社

●ベーレントの足跡

ジークフリート・ベーレントは，1933年11月19日ベルリンに生まれた。ベーレントの父は戦後間もなくからプロ・ギタリストとして演奏活動を始め，一方ベルリンのコンセルバトワールで教鞭もとっていた。ジークフリートが16才になったとき，その音楽院に入学したが，それは指揮の勉強をするためであった。しかし，間もなくギターにたいへん興味を持ちはじめたため，父親は友人にギターの指導を頼んだ。9カ月後には，生徒たちのリサイタルでバッハのプレリュード・ハ長調を，才気あふれる輝やかしい演奏でやってのけ，もはや先生には，教えるべきものは何もなかった。かくて，ベーレントは，独学でギター音楽を探究していくようになったのである。

19才ではじめてリサイタルを開いたが，これが大評判で，その後マグデブルグ，ドレスデン，カーセル，シュトットガルトなどでつぎつぎとリサイタルを開き，独奏者としての活躍がはじまった。

21才のときにはイタリアにいたが，1956年にイタリアからスペインに渡った。ここでスペインのギター音楽を充分に研究し，1958年にはソビエトまで足をのばし，ここでもセンセーショナルな成功をおさめた。この時期'58年から'59年にかけて，初めての世界旅行を行ない，2年後にもう一度，そしてそれ以来，度重ねて世界楽旅に出かけるようになった。

'65年にベルリン・フィルの3500の座席を持つホールが改装になってオープンしたときベーレントは，このステージに立った。マンモスホールに満員の客は，その素晴しいギターに感動し，ジャーナリズムはベーレントを世界の巨星と書きたてた。ベーレントの出現で，ベルリン・フィルは，そのレパートリーにギター協奏曲を加え，現代ドイツ音楽界の第一人者であるヘンツェの「ヘンデルリン・カンタータ」初演にディースカウとともに選ばれ，ベルリン・オペラのスター，スペイン生まれのピラール・ロレンガーとのデュエットはドイツ楽壇の呼び物となり，スペインのロドリゴ，イタリアのテデスコ，ドイツのハルティク，チェコのコニエッティといった現代屈指の作曲家たちが，競ってベーレントに曲を献呈するということになった。

また，フォルクローレの分野にも積極的にはいりこんで，ユダヤ生まれのベリーナというよきパートナーを得ている。こうした地味な分野にも，ベーレント独自の境地を見出している。ベーレントは，また，室内楽の分野でも秀れた活動をしている。ベルリン国立ＲＩＡＳと組んで，ジュリアーニ，カルリといった古い時代のものからテデスコ，ハルティク，バウマンなどにいたる協奏曲を早くからとりあげている。

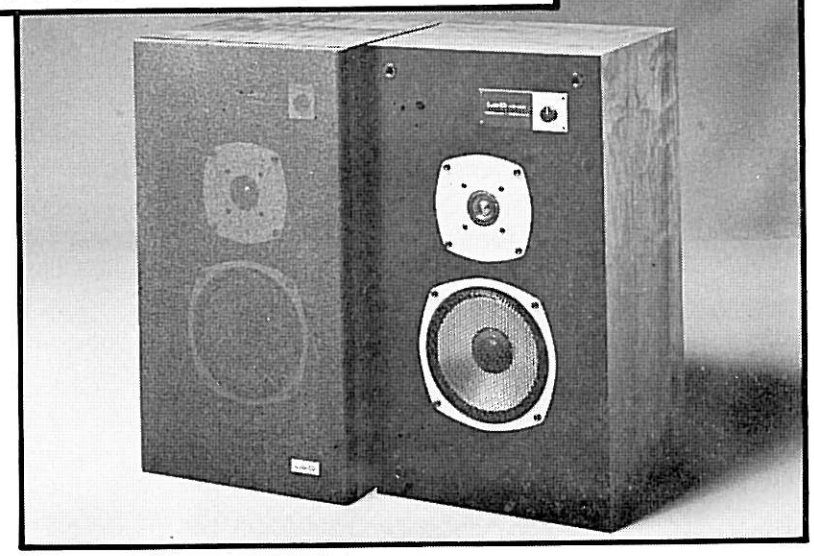
こうした演奏活動のほかにベーレントは，ギターのための主要作品の編さん，古い作品の校訂，民謡の採譜，彼自身の作品など，1千以上の出版を行なっている。

昨年の活動をみると，ＢＡＳＦから6枚のＬＰを出し，アメリカのＭＨＳでは，6枚シリーズのうち5枚の現代音楽物を手がけ，やはりＭＨＳからザグレブ弦楽四重奏団との共演盤3枚とギターの巨匠シリーズ3枚という驚異的レコーディングを行なっている。フェスティバル関係では，Dubrovnik, Zagreb, Warschau, Barcelona のフェスに参加，夏には自身が主催する恒例のギターとリュートだけのためのフェスティバルとマスタークラスを彼の持物であるローゼンブルク城で行ない，7月24日から8月22日にかけて10回のマンドリンを含む現代音楽のコンサートが行なわれる“アルトゥミュールタル音楽祭”を主催している。

この2年間に現代音楽演奏のために出演したラジオ番組は60回，献呈された曲は300曲以上，と記録的数値。

なお，今回は，スカンジナビアのコンサート・ツアーのあと6度目の来日となる。

原音へ、さらに一歩。



サンドイッチ・メタルコーン

Lo-D HS-400

¥69,000(1本)(新製品)

演奏会場の雰囲気をそっくりそのまま伝えるべく

このＨＳ-400は、オーディオが原音にどこまで迫ることができるか、1つの解答を与えたい…そんな気概をもって製品としました。スピーカーにとってHi-Fi追求とはスピーカー固有の音色をキャンセルしたリアルな再生音を実現する、につきます。ピストン的振動領域の拡大を図るため、振動板素材を新たに開発するとか、無限大バッフルでのシステム測定を採り入れるなど、新技術と確固とした設計思想で、一途に生なましい音の再現をめざした2ウェイ、ＨＳ-400。1度、原音と聴き比べてくだされば、このスピーカーの良さがお分りいただけると思います。生演奏を聴いた後にご試聴を望む自信作です。

HS 400 Specification
●エンクロージャー形式　密閉●使用スピーカー　ウーハー：20cmサンドイッチメタルコーン・ギャザードエッジ、ツイーター：3.5cmドームコーン形ギャザードエッジ●再生周波数帯域　20～20,000Hz(15dB無限大バッフル)●最大入力　100W●出力音圧レベル　88dB(1W・1m)●外形寸法355(W)×630(H)×340(D)mm●重量　20kg

★HS-400について詳しい資料をご請求ください。
〒105　東京都港区西新橋2-35-6(第3松井ビル)日立家電Lo-D係

★「日立コンポーネント保証書」は必ずお受けとりください。
お買い上げの際に販売店名、ご購入年月日が記入されているかをお確かめになり、大切に保存してください。

ローディ Lo-D

by HITACHI

ギターの可能性の極限に迫るベーレント

杉田村雄

戦後クラシック・ギターの大家の来日は昭和29年マリア・ルイサ・アニドに始まるのである。すでに47才，待望久しい来日に，ギター界は大変な興奮で彼女を歓迎したのであった。

その後昭和35年（1960年）になって，当時すでに欧州の三羽鳥といわれたジュリアン・ブリーム（英），ナルシソ・イエペス（西），ジークフリート・ベーレント（独）の内，まずイエペスが10月来日した，彼はすでに映画"禁じられた遊び"の「ロマンス」で大衆にあまねく親しまれ，知れ渡っていた矢先であり，当時32才の彼は素晴らしい演奏を聞かせてくれた。スペイン一辺倒のギター界は，その正統派の巨匠を迎えて大変な喜びようであった。

そのわずか2カ月おくれの12月にベーレントが来日したのである。彼はイエペスより6才若く27才の弱冠。しかし堂々ドイツ文化使節（1961年1月24日の日独修交100年にさきがけて）として第一生命ホール特別音楽鑑賞会のステージに立ったのである。

当時私は第一生命ホールの営業部長の職にあり，ギターの友人である高橋功，高嶺厳両君がベーレント主宰するベルリンの第20回国際ギタリスト会議に招かれて出席して以来，この二人の紹介でベーレントを知り，そのとき私が彼を迎え朝日新聞と組んで彼の演奏会を主催した次第である。その後昭和37（1962年）ベーレントの要請で朝日新聞と第一生命ホール（私が事務局長）が世話をして東京で第21回国際ギタリスト会議が開かれた。日本全国のギタリストも日頃のいさかいを棄て，全員参加し，これを期に日本のギター界も向上発展し，一層の隆盛期を迎えたのである。

その後3回の来日を経て本年は5年ぶり6度目の来日である。イエペスも7度目の来日がまた奇しくも同じ9月に重なった。日本の友人を愛し，聴衆を愛し，日本を理解し，親しむ心は両者共深くして変りはないが，イエペスのスペイン的な十絃ギターの魅力とは対照的なドイツ・ロマン派の伝統を汲むベーレントのギターに，私は大いに期待するのである。

彼は幼時より父親からギターの手解を受け1951年にはベルリン・クリンドワース・シャルベンカ音楽院を卒業してドイツ人としてドイツ音楽の基礎が出来上ったわけである。

彼は卓絶した技功の持主であり，ギターの可能性を極限にまで追及し，そのレパートリーはバッハの古典から現代音楽にまで幅広く現代の一流作曲家ロドリーゴ，テデスコ，ハルテッヒ，バウマン，ことにドイツの現代作曲家は競って彼に献曲しており，ギター独奏のみにとどまらず，室内楽の分野にも独自の境地を招き，ベルリン・フィル，イ・ムジチ，そのほか欧洲一流の交響楽団，指揮者，カラヤン，オット・マッエラス，カール・ゴルビン，ビリー・ハニュシュケ等と協演し，数多くの自作・編曲，ことに埋もれた古典の作品発掘，民謡の採譜等多く，また一方ドイツ青少年の音楽的向上指導にも意を用い，全ドイツ・ツップオルケスター（マンドリン・ギター系）の指揮，指導に当る等して，非凡な組織力を発揮して音楽祭，ゼミナー等開催している。一昨年彼の主宰するベルリン・ツップムジーク・'74音楽祭には我々オルケストラ・シンフォニカ・タケイが招かれて私も指揮をし，彼の指揮するD・Z・Oとの交歓を果した。

彼は単にギタリストと呼ばれるのを好まず，音楽家であると言っている。Musik durch Gitarre（ギターを通じての音楽である）と，彼はドイツ人として，ドイツ音楽的に育てられたのであるから，バッハを好んで弾く。極めて構成的に楽曲を処理し，ギターの独特な雰囲気や効果をねらわず，その本質を深く表現しようとする。ギターを聴かせるというより曲を聴かせる演奏なのである。だからピアノ，バイオリンを聴く一般のドイツ音楽に親しむ聴衆は，ベーレントのギターを通じてのドイツ音楽にも親しめるはずである。彼は以前から同じギター，ワイスガーバー作を使っている。珍らしい名器で非常に寡作で他に入手できないらしいが，楽器も非常に軽く，音は独特なやわらかい音が特色である。彼の奏法は完璧なタッチから来る軽い運指で，音から音へ（和音から和音へ）移動する際"チュッ"あるいは"シュッ"と発する擦過音（絃をこすって出る雑音）がないので，一面ギター音らしくないともいえるが，聴く者をしてピアノを奏でているような錯覚に陥ち入らせることがある。バルトークのミクロコスモスを教則本代りに勉強したともいっている。見事なタッチである。

ここで共演者の2人の若い日本人ギタリストについて一言述べてみたい。荘村清志君は父君（我がO. S. T. の理事）に連れられて21回国際ギタリスト会議で来日のベーレントに将来の指針の為ギターの指導を受けたことがある。今は日本の若手のホープである。芳志戸君は武井賞委員であり，日本の現代音楽に意慾を燃やしている第一級若手奏者である。共に小原門下で荘村はイエペス，芳志戸はセゴビアに師事，ベーレントを加えてこの3人の顔し出す，ギター音楽は，今シーズンの興味ある話題である。

（筆者・日伊音楽協会理事長，オーケストラ・シンフォニカ・タケイ理事長，武井賞委員）

世界狭しとかけめぐるベーレント

高橋　功

ジークフリート・ベーレントは1933年の生れだから，1958年秋ベルリンで国際ギタリスト会議を主宰したときは25才だった。弱冠25才のベーレントが，あれだけの国際会議を切りまわし，成功させたその手腕には驚嘆するばかりだった。私はそのときから親睦の間柄である。

もともとドイツ，オーストリアはバッハ，ヘンデル，ハイドン，モーツァルト，ベートーベン等々，器楽独奏に，室内楽に，オーケストラにすぐれた音楽をもっていた。そうしたゲルマンの牙城に，ラテンの楽器ギターが喰い込む余地があまりなかった。ギターの歴史をたぐってみると，すぐれたギタリストは少なかったし，いわばギターの栄える地盤がせまく，不毛とはいわないが，一級国ではなかった。そこへ慧星のごとく，突然変異的にベーレントが生まれたわけで，ゲルマンはベーレントに目を注ぎ，耳をそば立て，神童と呼び，天才児と呼んで，それを大事に見守り，育て上げた。ベーレントはドイツのギター界で唯我独尊的存在であった。そしてバッハはじめゲルマンの音楽ばかりでなく，ギターの祖国スペイン，その姉妹国イタリアやフランスなどラテン系音楽にもその才能を発揮してドイツの楽壇にユニークな地位を護得するに至った。

すでにアンドレス・セゴビアの出現によってギターはラテン系の国々でみごとな開発をみせていた。ゲルマンの比類ないクラチシズムの牙城に迫るもののなかったラテンの音楽はロマンチシズムやインプレシオニズムでその歴史を飾ったが，もともとゲルマンとラテンは水と油といわないまでも，しっくりいかなかったし，ドイツ楽壇の寵児ベーレントを素直に受け入れることをしなかった。万事積極的なベーレントは，進んでラテン系の国々にも演奏旅行をし，みごとな演奏を披歴したが，自国ドイツほどにはちやほやされなかった。ラテンのゲルマンに対する嫉妬かも知れない。

ドイツでは逸早くドイツ・グラモフォンがベーレントを専属として，そのレコードを発売してヒットした。多才多能なベーレントは，歌手ベリーナと組んで，ベリナ＝ベーレントの組合わせでますます有名になり，リアスの奏者と組んで室内楽やオーケストラと共演協奏して地位を確保し，歌手ロレンガーやフィッシャー・ディースカウとも共演し，ますますその地位を向上し，ついにベルリン・フィルの豪荘華麗な大ホールのステージにギターをもって聴衆を魅了する，という大芝居にも成功した。ギターをもってベルリン・フィルのホールで演奏した例はそれまではなかったのである。

豊かな才能に恵まれたベーレントは多彩な音楽で自分の花園を飾り，芳香をただよわせた。その中で異彩を放ったのは，アバンギャルドすなわち前衛音楽との握手である。ハンス・ウェルナー・ヘンツェをはじめ，ケージ，カーゲル，ハウクをはじめ，近くはブソッティ，ブロウエルなど，それに自作の音楽においてベーレントは，ギターの可能性と現代性を展開することに成功した。まことにベーレントは前衛音楽の旗手であり，ベテランである。

ベーレントはゲルマンだけでなく，ラテンの音楽，フラメンコまで身につけ，そうした横の広がりだけでなく，ルネッサンス，バロックから現代に至る縦のつながりでも比類のない，グローバルな存在である。

しかもベーレントは，才能と若さに乗ってマンドリン音楽にも手を出し，力を注いだ。ザールブリュッケンのバイエルン放送局を根城とするマンドリン・オーケストラを指揮し，指導し，一時はドイツのマンドリン界を牛耳るほどだった。ここでベーレントは，わが国の誇りであるマンドリンの名手越智敬と組んで，共存共栄の実を発揮した。ここでまた早く佐々木忠，角田隆を助手とし，彼らをギター界，リュート界に送り出し，近くは平山政幸，前田健をギター界に送って，日本との絆を一層強めたのであった。

ベーレントは大の日本通である。これまで5度来日し，日本の若い新しい音楽の創造者入野義郎，近衛秀健，辻井英世たちと交流を図り，日本音楽の紹介にも一役どころか，二役も三役も買っている。今回の来日公演で荘村清志，芳志戸幹雄と組むことになったが，ここに目をつけたマネジャーのアイディアに私は敬服する。荘村はその清純な，むしろロマンチックな音楽で優位を占めているし，芳志戸はまれにみる知性のギタリストとして注目されている。ベーレントとのコンビで一だんと輝やくことになろう。

ベーレントはルフトハンザのプリンスとも呼ばれている。ドイツ航空のゆく所，その末端までベーレントは出かけている。私がシュワイツアー病院に勤めていた頃，2度もランバレネを訪ねて，シュワイツァーにバッハの音楽について学んだが，ベーレントのその熱意と努力を私は高く評価している。アンドレス・セゴビアも文字通り世界を股に飛びまわったが，その点ではベーレントが一歩を先んじているといえるかも知れない。ベーレントは行く先々で，現地の民謡を採譜し，それを演奏し好評を博している。日本でも民謡のほかに「浜千鳥」その他を編曲してレパートリーを豊かにしている，といった具合である。

私は1957年にフラメンコ・ファンタジアを献呈されたのをはじめ，今年の新作「ポストカード第一」の冒頭の前奏曲も献呈され，すでに5曲献呈の光栄を担っている。日本に来るとベーレントは私をドクターなどと呼んでくれず，パパと呼んでくれる。日本にはもう1人ベーレントのパパがいる。ギター界の先覚者で弁護士をしている河合博である。その夫人がまた面倒見のいい女性で，ベーレントは日本に来ると河合一家に甘え切っている。

ベーレントは，セゴビア，イエペス同様強い近視で，片時も眼鏡をはなさず，はなせない。セゴビア同様大の愛煙家で，健康上一頃断ったことがあったが，今はどうか。

ホビーは釣である。日本食は，寿司，天婦羅，好き焼など何でもござれ，うに，なまこ，ほやまで好物なのは恐れ入る。

好漢ジークフリート・ベーレントとの面談を楽しみにし，その来日を私は首を長くして待っている。

（パリ国際ギターコンクール審査員）

スイスのリュート奏者待望の再来日

コンラッド・ラゴスニック

セゴビアに師事し，1975年4月の来日でたいへん評判をとったすばらしいリュート奏者。1977年（昭和52年）11月来日予定！